

令和5年度第1回樋原市子ども・子育て会議 会議録

日時：令和5年9月28日（木）午後2時から午後4時

場所：樋原市役所分庁舎 4階コンベンションルーム

出席委員：天根委員、伊瀬委員、北尾委員、桐山委員、高瀬委員、高西委員、田中委員、中尾委員、榎谷委員、松井委員、矢追委員、山本委員

事務局：松南副市長、吉田教育長、北野こども・健康スポーツ部長、栗原教育委員会事務局長、川田こども・健康スポーツ部副部長、上島こども・健康スポーツ部副部長、河野教育委員会事務局副局長、清水教育委員会事務局併こども・健康スポーツ部副局（部）長、辻本教育委員会事務局副局長、門長こども政策課長、岩本こども未来課長、大鳥子ども家庭相談室長、日和健康増進課長、片岡教育総務課長、鶴田学校教育課長、吉田人権・地域教育課長、西岡こども政策課長補佐、竹内こども政策課主任、竹鼻こども政策課主査

傍聴者：1名

1. 開会

・事務局

ただいまから令和5年度第1回子ども・子育て会議を開催する。お忙しい中で出席を賜り、感謝する。開会にあたり、副市長よりごあいさつを申し上げる。

2. 副市長あいさつ

・松南副市長

本日の審議は大きく分けて2点ある。

1点目は、第2期子ども・子育て支援事業計画の昨年度の取り組みについての評価である。幅広く意見を頂き、PDCAサイクルを回していきたい。

2点目は、令和7年度から始まる次期子ども・子育て支援事業計画の策定に向か、今年度はその基礎調査として保護者、小学5、6年生に対してアンケート調査を実施する。その原案を審議していただく。

引き続き、子育てがしやすいまち・樋原市を目指し、今後も子育て関連施策の充実に取り組みたいと思っているので、委員から幅広く、活発な意見を賜りたい。

・事務局

(出席状況の報告)

(委員の紹介)

(資料の確認)

審議の前にこども・健康スポーツ部長から説明がある。

・北野こども・健康スポーツ部長

本会議に先立ち、6月に発生した、4歳女児にかかる重大事態に関して報告する。6月19日、市内在住の4歳女児が虐待を疑わせる事件で亡くなつたことに対し、市民に不安、心配をかけたことを深くおわびを申し上げ、女児のご冥福をお祈り申し上げる。

この家庭は令和2年9月に樋原市に転入し、11月から市の担当課で見守り対象となっていた。相談支援や見守りを行っていた家庭でこのような事態が起こってしまったことを重く受け止め、市の対応について市と奈良県の共同で第三者的な見地から調査検証を行う、奈良県樋原市共同設置検証チームを10月1日付で設置し、市及び県の対応について検証を行うとともに再発防止策の策定に取り組んでいく。

事件の詳細については、個人のプライバシーや名誉に関わる内容であることや、今後の捜査に支障をきたす恐れがあることから、本日の会議で取り上げることは差し控えさせていただくことにご理解をお願いする。

・事務局

(委員2名を追加紹介)

(傍聴希望者1名を報告)

これから天根会長に議事進行をお願いする。

3. 議事

・天根会長

議事の(1)、(2)については、施策執行関わっての委員の意見や提言などを中心に従来通り行い、(3)、(4)については、次期子ども・子育て支援事業計画の重要な資料になるため、時間を割いて委員の意見をお聞きしたい。

それでは(1)、(2)について事務局から説明していただき、説明後に質問や意見を賜りたい。

・事務局

議事(1)、(2)を資料1、資料2で説明

・天根会長

現状の確認や今後の展開の説明に対し、それぞれの子育て支援などの立場から希望や提案、質問等はないか。

・矢追委員

資料1の27ページの施策ナンバー64について質問する。子育てサークルは現在、少子化や早い時期から保育園を利用する人が増加し、身近な友人らに声かけしているが参加者数が減少している。これまで市のチラシやホームページを見て、市に問い合わせをして入会する人が多かったが、今年から個人情報保護の問題で手順が変更されている。以前はサークルの入会希望者が市に電話で問い合わせをすると、電話口で各サークルの代表者の電話番号を教えていたが、現在は「ミグランス」の子ども家庭相談室に出向いて代表者の名前と電話番号が記されたチラシを受け取った上で、電話をかけなければならず、手間がかかって煩わしいため、問い合わせした人が入会に至らないケースも見受けられる。

サークルは人数が減ると、市の補助金の要件に当てはまらなくなる。補助金を申請する団体でなくなると、チラシやホームページにも掲載されなくなる。サークルの中には、少ない人数でも継続して活動中で、来年には人数を増やし、補助金申請ができるようにとがんばっているところもあるが、人数が集まりにくい状況に陥っている。サークルでも工夫を検討しているが、電話の対応や広報の仕方に対して、担当課でも何らかの方策を検討していただきたい。

・事務局

子育てサークルは指摘どおり、減少傾向が続いている。ホームページやチラシに掲載している団体は補助金の申請がある。交付している団体で、昨年度まで補助金の申請・交付があり、今年度は申請がなかった団体に対しては、市から代表者に連絡し状況を確認をしている。

昨年、今年と確認した段階では、問い合わせ先のサークルについては、人数的に要件の5人より少ない。「細々と活動をしたい」という意向を頂き、チラシなどの掲載も控えている。逆に、少ない中でも次年度以降、補助金申請している団体も聞いたので、掲載などについて考えていくたい。

サークルの連絡先については、子ども家庭相談室でサークルの事務局的な機能を持つことは難しい。そのため、このような形態で行っているが、子どもが小さくて外に出られないなどの事情がある人に対しては、郵送で送ったケースもあり、その都度の対応とさせていただいている。サークルで番号を載せていただくとありがたいが、サークルを取りまとめる人がいれば、その人に番号を決めていただくとチラシにその番号を載せることも可能ではないかと思っている。そうなると、市から案内できる番号になると思う。取りまとめが各サークルで負担になることもあります、現状では意見を聞いて考えていきたい。

・矢追委員

ただ今の話を各サークルの代表にも伝え、どういう工夫ができるか検討した上で、提案したい。これ以上人数を増やすではなくていこうと決めたサークルや、実际になくなつたサークルが市内にも多くある。そうなると、全市的に参加できるわけではなく、校区単位で設置しているサークルも多いため、住まいの地域に身近な子育てサークルがない人たちも多いと思う。そういう人たちに対して、市がどう対応していくかも含め、今後、子育て支援を考える上で検討していただけれどと思う。

・伊瀬委員

何かが足りていない、もしくは何かが見えていないため、有機的に動いていないのではないかと思う。決定的に時代が違うことがある。仕事はほとんど携帯で行い、保護者のやり取りもほとんど携帯である。こうした携帯端末から保護者はエントリーしてくることを大前提に考えなければいけない。子育てでサークルの話が出ていたが、場合によってはそういうマッチング系の仕組みをつくればできるだろうし、それぞれのエリアでということであれば、子育て会議という場ではなく、福祉関係の地域・自治会との取り組みも連携しなければいけないのかもしれない。

また、家族と地域との関係が壊れていると感じている。核家族化がどんどん進み、現在第4世代の核家族の状況である。家族どころか、現実的には親と子すらも分離されている。子どもに携帯を渡し、それで遊んでいればいいという人もいる。私たちは親と子の関わりをサポートしていくが、小学校教育もインターネットにシフトしてきている中で、何をどうブレイクスルーすればいいのかと思う。今後5カ年の計画を考える中で、今までの体制では無理だという現実を踏まえた上で、これまで経験してきた物事を踏まえ、何が足らず、何が見えていないかの検討が有益さにつながると思う。

食育の話の中で、授業で命への大切さの話をされていたかと思うが、これだけネット社会になると、みんなが知識・情報は若干知っている。年長の子どもたちも理屈だけは分かっている。ただ、体験したことがなく、本当に悲しい、本当に残念、本当にうれしいといったリアリティーが希薄になっている気がしている。子どもたちは会話の中では正解的な答えを言うが、子どもたちの琴線に触れ、響いてアウトプットしているのかと思うと、何とも言えないところがあると思っている。だからこそ、子どもたちが体験を通じて知る場が、市内の教育や私たちの場を利用していただくとうれしく思う。

地域と家族が崩壊していること、インターネットという文明を使う中で抜けているものをフォローするために、リアリティーの体験は何をすべきかなどが課題と思う。

・天根会長

委員2人から意見を聞いたが、子どもたちやさまざまなサークルが活発になっていくためにどうすればいいのか、施策を行っている段階から盛り上げる施策を検討し、行政的にきめ細かな対応を考えていけばいいのではないか。

もう1つは、先を見て今を考えることである。イギリスでの経験だが、人権発祥の地だけに、小学生でも人権を尊重している。日本では尊重しているといいつつも、親がしつけという発想で、子どもを自分の配下に置いている。その差が、子どもの独り歩きの上で出てくる。見学でも日本は責任者が付いて一緒に並んでという発想になるが、イギリスではリーダーが1人いて整列させたり、危ないと注意や指導したりすることはない。なぜがというと、子どもといえども、人として人格があるため、自分のことは自分でやるべきとの考え方である。文化の違いといえばそれまでだが、グローバル化されると、子どもの人権も真剣に考えて対応する必要がある。

ネット社会になると、タクシーを呼ぶにも携帯でしか呼べない。世の中全体がネット化され生活がそうなっていけば、人と人とのコミュニケーション能力がかなり変わってくる。口でものを言

うのでは捉え方が変わってきてている。このことは、年配者から見るとさみしく感じ、心を通わせたいと感じる。

特に国では、子どもを中心に据えた施策がテーマになっている。そういう面で、子ども・子育て会議も、子どもを据えた社会づくりをどうすればいいかを行政府に提言する立場で議論をしていただけたらと思う。

前半はこれで打ち切らせていただく。次に議事の（3）、（4）について、事務局から説明していただだく。

- ・事務局

議事（3）を資料3に基づき説明。

- ・天根会長

説明に対して意見、質問はないか。

着地点は、いつから実施するかが分かっている関係でそれまでにまとめ上げ、それを基本に、進捗によっては少々の変更あろうが、おおむねこれで進むということでよろしいだろうか。意見はないようなので、このスケジュールで進めさせていただく。

それでは、議事の「（4）アンケート調査について」を説明していただく。

- ・事務局

議事（4）を資料4、資料5－1～4に基づき説明。

- ・天根会長

アンケートは全部で3つあるため、1つずつ意見を聞いていきたい。資料5－1の趣旨としては、このような子育て計画にしたいためにアンケートを採るという発想ではなく、今実施している子育て計画に基づく、それぞれの取り組みの上に立って、保護者や子どもたちがどういう状況で、さらにどういうことを要望しているかを踏まえ、次期計画を立てるという趣旨でいいか。項目で追加があるかもしれないが、趣旨に沿って考える立場で項目を絞っていただいた。

まず、資料5－2の就学前保護者用のアンケートから審議を始めたい。最初に2ページ、「子育てを行っている方」と「子育てに日常的に関わっている方」の違いはあるのか、あるのであればどう表現するのか、同じであればまた文章を変えるなど、いろいろと意見はあると思う。表現の内容だけなので、「違いはあるのか」という点に対して事務局はどうか。

- ・事務局

事務局としては、「主に行っている方」は「中心的に子育てを行っている人」を1人選択し、「日常的に関わっている方」は「主に行っている方も含めて普段から手伝ってくれているような人たち」を複数選択するというところが、項目の違いとして認識し記載している。

- ・天根会長

ただ、アンケートを出す側がその内容を読み取れるかどうかというところがある。知りたいことがはっきりと読む人に分かる表現にする必要がある。どちらか分からぬが、これでという形で集計するよりも、より分かりやすい表現にしておくことがアンケート調査の鉄則である。発信者の思いと受け取る側の思いが一致できる表現にしてもらいたい。

分けたいのであれば、分ける表現にしてはどうか。この2つがほとんど同じ内容に捉えられても大丈夫であればそのままいいと思うが、分けて集計したい、概念的に分けたいのであれば、もう少し分かるようにしておいたほうがいいと思う。

その他にも、委員から頂いた意見に関して、事務局から発言することはあるか。

・事務局

特に審議をお願いしたいところとして、2番の②で「保活・待機児童に対する不安・負担」の選択肢が入っていないとの指摘があった。事務局としては、選択肢の7番に「子どもを預けられる施設や条件」という項目があるため、保活している人や、待機児童に関する不安についても、子どもを預けられる施設などがあるのか、また条件に合うのかというところに含まれるのではないかと考えていたが、あえて選択肢を独立した形で追加する必要があるかどうかについて、審議をお願いしたい。

・天根会長

「こうしたほうがいい」という指摘があれば頂き、なければ私と事務局で文言を整理していく形を取って進めたい。提案していただいている内容で見ていただき賛否の意見はないか。できるだけ委員の意見を尊重しながら、アンケートの趣旨が生かされるように私のほうで調整していくきたい。アンケート全体の表現内容についてでも結構なので、意見を頂戴したい。

・山本委員

アンケートを実施するときに、答えに何を期待しているかは大事にしなければならないと思う。例えば、資料5-2の2ページにあるQ6で「この調査票にご回答いただく方はどなたですか。お子さんから見た関係でお答えください」との質問は、回答の選択肢に母親、父親、祖母・祖父とあるが、何を期待しているのか。欲しい材料はQ7だけで分かるのではないかという気がする。つまり、母親あるいは父親が書いたということは、「子育てを主にやっているのは誰か」という問い合わせだけ把握できるのではないかと思う。誰がどうかということがはっきり分かる1つの質問があれば、それとよく似た質問を知らないのではないかという疑問が、指摘していただいた中にあるのではないかと思う。

また、日本語の表現として、Q5では「お子さんの養育に関わっている方の年齢はどれですか」という表現ではなく、「年齢を選んでください」などの書き方があるのではないか。

・天根会長

小さなことでも指摘していただき、最後に総合的にいいものに仕上がるべと考えている。思いつきでもいいので発言してほしい。

・事務局

Q 5 での「どれ」は、どの選択肢かという意味であるが、表現は考えたい。

Q 6、Q 7 については、回答する人が主に子育てを行っているかどうかが分からぬ中で、どういう立場の人が答え、実際に主に子育てを行っている人とはまた別の人も考えられるため、設問を 2 つ設けている。

・松井委員

アンケートはどれだけの意見が集約されたのか、数の部分が大事である。前回のアンケートの回答率はどの程度だったか。「督促」という言葉が出てきたが、私たち施設に携わる者としては、保護者には協力を依頼し、より多くの意見を頂けるように努力するが、どのくらいの割合で返ってくるのか。今後の会議もこれを基にして行われることを考えると、回収率はどの程度を目指しているのか、どういう努力をするのか、教えていただきたい。

・事務局

回答率に関しては、資料 5 – 1 の「第 3 期計画策定に向けたアンケート調査の概要」を見ていただきたい。その中で、【参考：過去の調査実施結果】を掲載し、平成 25 年、31 年の 2 回の調査は無作為抽出で調査票を郵送して回答してもらい、回収率はそれぞれ 51.6%、57.5% になっている。今回、インターネット上のウェブ調査になり、どの程度の回答率になるか分からぬが、対象者を広げた全数調査を実施し、多くの回答を拾っていきたい。

・松井委員

「督促」は回答していない人に対して発信するのか。

・事務局

コドモンで配信している場合は同じようにコドモンで配信し、文書で発送した場合は同じような形で督促と礼状も兼ねた文書を渡すことになる。回答しているかどうかは分からぬため全員に渡す。回答していただいた人には礼状になり、まだ回答していない人に対しては「督促」の意味も兼ねていると思う。

・天根会長

権原市内の小学生は全員がタブレットを持っている。保護者はそれを使うか携帯電話を使う形になるのか、あるいは自宅のパソコンを使うのか。

・事務局

子ども本人は、小学生は全員 1 人ずつタブレットを持っており、学校から配信かクラスの掲示板のようなころに貼り付けて回答してもらう形になると思う。

・天根会長

保護者からのアンケートも文字媒体でなくて、ネット環境を使うのか。

・事務局

回答そのものはネット環境でしていただく。調査票は文章で送るか、メールで配信するかの違いはあるが、回答はインターネット上でしてもらう形になる。

・天根会長

就学前児童の保護者と就学している子どもを持つ保護者、小学5、6年生対象のアンケートの3つを提案していただいているが、それぞれの立場に関わるアンケートを見ていただき、表現などに関する意見や疑問はないか。入試問題などでも作問者はよく分かっているが、回答する側からは何を質問しているのか分からぬケースもある。アンケートも同じで作った側はよく理解した上で回答を期待するが、読む側は分からなかったり、違って解釈することがよくある。修正したほうがいい点の指摘や意見はないか。

・伊瀬委員

3つの資料に虐待に関する記載がない。子育てをする中で感情的になってしまったと思うことがあるなど、保護者に対する聞き方があると思う。子どもに対しては、納得できないため家庭の中でたたかれたり、精神的につらくなったりしたことはないかなどの聞き方あるのではないかと思った。虐待に関する記述がなかったため考えを聞きたい。

・天根会長

虐待だけでなく、いじめや不登校の問題などは、今後の子ども・子育ての大きなファクターになると思う。これまで社会教育という発想で教育場面が動いていたが、これからは子ども・子育ては、親と子がいかにあるべきかという関わりが重くのしかかってくる時代になってくると思う。形式的なこと以外に、そういう面は取り組んでいく時代に入ると思う。

今、樋原市でも問題が起きている。この問題そのものについては、担当部局で検討して行政として、また家庭づくりの問題などいろいろな面で分析し、結果を公表すると思う。それを待たずには、それぞれの課で防止策を考え始めなければいけない時期になると思う。

そういう意味で、それが子育てをめぐる親と子の関係という発想になったとき、市として何を行っていくかも考えていただきたい。そのベースになるが、委員が指摘した考え方を取り入れていくことも必要を感じている。

・事務局

虐待に関する項目としては、資料5-2の13ページにある「Q1」の⑥と⑧で、父親や母親が子どもを虐待しているのではないかという記載をしている。資料5-3の11ページについても同じ項目がある。資料5-4の子ども本人へのアンケートについては、8ページの「(2)子どもの権利（人権）として、どんなことが特に大切だと思いますか」の設問で、「5.子どもが暴力や言

葉で傷つけられないこと」など、子どもの意識として聞く部分もあると思っている。

・天根会長

アンケートとしても触れていないことはないということだった。問題は何かというと、これから樋原市を考えた場合、現状だけでなく、今を乗り越えていくために何が必要かという施策を見つけることである。そういうこともアンケートをベースに考えようということが委員の提案だったと思う。そういうことを踏まえてさらに見ていきたい。

・高瀬委員

アンケートの資料5－2の13ページにある「Q1」の⑥、⑧について、虐待をしている人に「私は虐待をしている」ことを問う内容ではないかと違和感を覚える。虐待をしている人は虐待っていない。例えば「しつけのしすぎと感じますか」などといった言葉に置き換える選択肢はないのかと思う。

・天根会長

指摘にあったとおり、虐待している人は虐待とは思っていない。子どもを虐待しようと思って虐待している人はほとんど皆無です。言葉の発想の問題になるが、どうしてそういうものを見つけ出せるかという発想で言葉を考えてほしい。子どものアンケートでも、朝ご飯を食べない理由に「太らないから」という選択肢があるが、太らないようにご飯を食べないということの前提は、太ることは駄目だということであり、それをやめたいから食べないという論法になってくると、太っている人がショックを受けてしまう。大人から見ると考えられないようなショックが出てくるので、回答する人の立場で読める、そして欲しいアンケートが採れるという文言にするよう、点検してみたらどうかと思う。

・山本委員

資料5－2、3については保護者を対象にしたアンケートなので、設問の文章を表現や、あるいは選択肢の項の文章については柔軟に考えていただけると思うが、資料5－4は高学年の子どもに対するアンケートであるため、設問の文章表現、選択する項目の文章表現は分かりやすさに十分な配慮が必要である。

その中で、子育てに関するアンケート調査として、5ページの「(2) あなたは学校の授業が分かりますか」との質問は、「授業の内容が分かるか」との意味と想像する。さらに、子育て環境の調査に、この質問項目が必要なのか。例えば、この項目で「授業が分からぬ」という回答が多くった場合、市教委では教材研究や授業研究など教職員のスキルを上げなければいけないということにつながるだろうが、子どもたちが、授業が分かるかどうかについてアンケートで聞く必要があるのか疑問に感じている。大人は柔軟に考えて回答はできるかもしれないが、子どもたちにとってはっきりと分かりやすい、答えやすいアンケートでないといけないのでないかと感じたため、配慮していただきたい。一般的に授業が分かるかどうかはよくいわれるが、子どもたちにとってどうなのかと思った。見直しが可能ならば配慮していただきたい。

・事務局

市教育委員会と協議して再考したい。

・矢追委員

アンケート票はおおむねこの中身に沿って、会長とも相談の上で決めていただいてもいい項目もある。

1番の表現の変更が必要かどうかについては、意味の違いは分かると思うが、似たようなことを聞かれているので、子育てに日常的に関わっている方というところと施設などというところにかぎ括弧を付けるなどして、先ほどの質問からの流れですぐに答えてしまわないような工夫を入れてもいいのではないかと思った。

2番の保活や待機児童に関する不安・負担が子どもを預けられる施設や条件という項目に含まれるのであれば、この項目を追加しなくてもいいのではないかということだが、前回のアンケートの回答でも同じ項目があったと思う。そのときの回答者が0～2歳で20%、3～6歳で12.1%の人がそれにチェックをしている。そのときの待機児童や市の状況などを見てこの数が適正と思われるのであれば、特に新たに追加せず、従来どおりの設問でいいのではないかと思った。

・中尾委員

小学生本人に回答してもらう資料5－4について、何を目的に調査するのか疑問なところがある。例えば、1ページの「(3) あなたが一緒に住んでいるご家族を教えてください」という設問や、先ほどから出ていた勉強が分からぬときに誰に聞くのかとの問い合わせでは、親でも教えられる親もいれば、忙しいあるいは自分が分からぬなどで教えられない保護者もいると思う。また、塾に行かせてもらえない子どももいると思う。

授業の中で一斉に回答することになれば、子どもたち同士でタブレットなどをのぞかれたとき、家族関係などあまり知られたくない場合、どうするのだろうかと思う。質問にはプライベートでデリケートの項目もあるため、担任の教師がのぞかないようにコントロールできるのだろうか。リスクを冒しても意義なデータを取るためであれば必要とは思うが、疑問を感じる。また、家族といつても、母親の彼氏と2人で住まわされている子どもいるかもしれない。そういう子どもたちは、どのような気持ちで選択肢を選ぶのか気になっている。

・天根会長

そういう意味では、(3)の「6 そのほかの家族()」という選択肢にある括弧の中は人数を書くのか、「おっちゃん」と書くのか、その判断は5年生では難しい。この辺りの点検も次回までにしていただきたい。「子育て地域ぐるみ」という話だが、榎谷さんは、意見はないか。

・榎谷委員

先ほど指摘もあったように希薄になりつつあると思う。そういうことが分かっているから地域の中でもっと密接になれるような、また子育てに关心が持てる地域をつくっていかなければなら

ないと思う。しかし、この4年間はそのような連携が取れていないことが一番の痛手と思っている。地域の中でできる限りそういうことを進めていきたい。

・天根会長

「子育ては地域で」という最近の動きがある。そういう意味で、次期の子育てプランでは、子育てを通して地域づくりにもなるような方向性を見つけられたらしいのではないかとの感じがしている。先ほどから必要なものを実態に即して行っていけばいいとの意見があった。前との比較をするのであれば、項目はあえて変えないほうがいいが、あらためて知りたいがあれば、項目を考えればいいと思う。できれば、比較の上に立って進むほうがいいかもしれない。

・桐山委員

お礼と督促を1週間ほどで出し、さらに約2週間を締め切りしたいとの説明だが、保護者に対するアンケートに締め切り期日が書かれるので、督促を兼ねてお礼のメールをいつ出すのかと思った。約1週間で督促、約2週間で締め切りとの説明から、1週間目に打つのは難しい、どういう言葉で打つのかと単純に思った。小学生高学年を対象にしたアンケートは、子どもたちは小さいところで断ってしまって、そこから先に進めなくなる。分からることは先生に意味を聞くと思うが、子どもに対するアンケートは先生らの意見なども聞いたらいでのではないかと思う。

・天根会長

アンケートをつくる際、学生に書かせてフリーの文章の中から項目を選び出してつくるが、今回は子どもの立場に立つことが大切である。樫原市の子育てに関するアンケートという表題で、子どもたちにするのがいいのかどうかを考えた上で表題を決めていただければと思う。子どもは子育てをされている側であり、その辺をどう考えるか。先ほど話があったが、子どもたちがタブレットを使うときに回答を見せ合ったりするようなことがあるとどうかと思う。また、子どもの立場で見たときに、文面が分かるかどうかについては検討していただければと感じている。

・北尾委員

アンケートをつくった際、2次元コードを電子配信した際にURLをつけ忘れ、子どもが読めなかつたことがある。携帯のカメラで読み込めないという失敗をしたことがあるため、URLを必ず付けていただきたい。アンケートの回答には煩雑さが伴うかもしれないため、所要時間の記載があれば回答しやすく、回収率も上がると思う。保護者も空き時間などを利用して回答しようと思うので、配慮していただきたい。

・天根会長

提案を参考にして取り組んでいただければと思う。中身と回収率向上の2つが相まって、次の施策のベースになると思う。

それ以外に意見はないか。今日の段階の内容で精査・整理し、皆さんの意見を踏まえ、私と事務局で進めていくということでいいか。

(異議なし)

そういう形でよろしくお願ひする。

それでは、進行を事務局にバトンタッチしたい。

・事務局

議事（5）「委員委嘱の更新について」を説明

令和6年1月31日の委員の委嘱期間満了に伴い、同年2月1日から令和8年1月31日まで委嘱期間を更新する予定で今年12月に相談したい。

議事（6）「その他について」を説明

次回の開催は令和6年2月29日午後2時を予定している。

以上で令和5年度第1回子ども・子育て会議を終了する。長時間の審議に感謝する。

閉会